

October 21, 2021

**【前日の為替概況】ドル円、5日ぶり反落 米長期金利が1.61%台まで低下**

20日のニューヨーク外国為替市場でドル円は5営業日ぶりに反落。終値は114.31円と前営業日NY終値(114.38円)と比べて7銭程度のドル安水準だった。アジア時間に一時114.70円と約3年11カ月ぶりの高値を付けた反動でポジション調整目的の売りが優勢となった。米長期金利の指標である米10年債利回りが1.61%台まで低下すると、ドル売りの様相が強まり一時114.08円と日通し安値を更新した。

ただ、低調な米20年債入札を受けて米長期金利が上昇に転じるとドル円にも買い戻しが入り、114.36円付近まで下げ幅を縮めた。

なお、クオールズ米連邦準備理事会(FRB)理事は「11月にテーパリング開始を決定し、2022年半ばまでに終了することを支持する」と明言した一方、「一時的に中断された供給に合わせて、いま需要を抑制することは時期尚早」と述べ、利上げを急ぐ必要はないとの考えを示した。

ユーロドルは6日続伸。終値は1.1651ドルと前営業日NY終値(1.1633ドル)と比べて0.0018ドル程度のユーロ高水準となった。米長期金利の低下に伴うユーロ買い・ドル売りが入り、2時30分過ぎには一時1.1659ドルと日通し高値を更新した。主要通貨に対するドルの値動きを示すドルインデックスは一時93.54と日通し安値を付けた。

FRBが公表した米地区連銀経済報告(ベージュブック)では「米経済は控えめから緩やかな成長率で推移した」との認識が示されたが、目立った反応は見られなかった。

ユーロ円は10日続伸。終値は133.16円と前営業日NY終値(133.06円)と比べて10銭程度のユーロ高水準。21時過ぎに一時132.74円と日通し安値を付けたものの、そのあとは133.22円付近まで切り返した。ユーロドルの上昇につれた。

代表的な暗号資産(仮想通貨)であるビットコインは堅調だった。対ドルで一時6万6976ドル付近、対円で765万円台といずれも史上最高値を更新した。ビットコインの先物をベースとしたプロシエアーズのETF(上場投資信託)の取引が19日、ニューヨーク証券取引所(NYSE)で開始。市場では「ETF化により、仮想通貨投資の裾野が拡大するという期待から買いが入っている」との声が聞かれた。米国のインフレが加速し、保有資産の目減りを防ぐための投資先としても注目されているという。

**【本日の東京為替見通し】ドル円は上値再トライの可能性も、本日も豪ドルが相場牽引か**

本日の東京時間のドル円は、上値トライの可能性を孕みつつも引き続き114円台でもみ合いか。昨日は東京時間早朝からドル円は上値を攻めて、2017年11月以来の水準まで上昇した。仲値前にも買われ、タイミング的に市場のポジションが傾き過ぎたことで、上値を大きく広げることができなかった。本日も上値トライのタイミングが重要になるだろうが、米金利が依然として上昇傾向をたどり、原油先物も約7年ぶりの高水準を記録していることで、ドル円は底堅い動きを見せそうだ。

ドル円の上値を抑えるのは、米連邦準備理事会(FRB)の人事をめぐる混迷を深めそうなことや、中国を中心とした世界的な成長停止のリスクなどがあげられる。今週末から11月2-3日の米連邦公開市場委員会(FOMC)を前にブラックアウト期間に入ること、FRBの人事についても一旦は硬直化されるだろうが、パウエルFRB議長の再任問題を含めバイデン政権と民主党議員の間で水面下の話し合いが行われる可能性もあるだろう。また、115円にかけては本邦実需勢を含め売りオーダーが散見されていることで、年初来高値を超えた場合でも115.00円の節目を超えない限りは緩やかなペースの上昇に抑えられそうだ。

ドル円以外では、東京時間は本日も豪ドルが市場を牽引するか。昨日、中国政府が石炭高騰を抑制する方針を示したことで、一時石炭先物や鉄鋼先物は下落したが豪ドルの堅調地合いは維持された。人為的な介入では原油をはじめエネルギー不足は補えず、コモディティ価格の上昇抑制も難しく、根本的な解決ができない限り豪ドルやランドを中心としたコモディティ通貨は買い意欲が引きそうもない。

欧州入り後はトルコ中銀の政策金利発表が注目を集める。トルコリラは、昨日は調整が入ったが、今週に入り対ドルでは過去最安値を更新し続けている。本日も中銀の結果次第でボラタイルに動きそうだ。

## 【本日の重要指標】 ※時刻表示は日本時間

## &lt;国内&gt;

008:50 ◇ 対外対内証券売買契約等の状況（週次・報告機関ベース）

## &lt;海外&gt;

015:45 ◇ 10月仏企業景況感指数（予想：110）

016:30 ◇ 9月スウェーデン失業率

020:00 ◎ トルコ中銀、政策金利発表（予想：17.50%に引き下げと17.00%に引き下げで拮抗）

021:30 ◎ 10月米フィラデルフィア連銀製造業景気指数（予想：25.0）

021:30 ◎ 前週分の米新規失業保険申請件数／失業保険継続受給者数（予想：30.0万件／255.0万人）

022:00 ◎ ウォーラー米連邦準備理事会（FRB）理事、講演

023:00 ◎ 9月米景気先行指標総合指数（予想：前月比0.4%）

023:00 ◎ 9月米中古住宅販売件数（予想：前月比3.6%／年率換算609万件）

023:00 ◎ 10月ユーロ圏消費者信頼感指数（速報値、予想：▲5.0）

022日 04:00 ◎ ロウ豪準備銀行（RBA）総裁、パネルディスカッションに参加

0 欧州連合（EU）首脳会議（ブリュッセル、22日まで）

22日

## &lt;国内&gt;

008:30 ☆ 9月全国消費者物価指数（CPI、生鮮食品を除く総合）

008:30 ☆ 9月全国CPI（生鮮食料品・エネルギー除く）

## &lt;海外&gt;

008:01 ◇ 10月英消費者信頼感指数（Gfk調査）

※「予想」は特に記載のない限り市場予想平均を表す。▲はマイナス。

※重要度、高は☆、中は◎、低◇とする。

※指標などの発表予定・時刻は予告なく変更になる場合がありますので、ご了承ください。

## 【前日までの要人発言】

20 日 11:54 磯崎官房副長官  
「為替の安定は非常に重要で、引き続き市場動向を注視する」  
「足元の為替水準のコメントは控える」

20 日 12:59 中国副商務長官  
「消費促進のための措置を導入する」

20 日 16:44 ビルロワドガロー仏中銀総裁  
「ECB の政策は慎重でなければいけないが、耐えられる」  
「インフレ急進は一時的と予想」  
「仏や欧州経済は非常に強い」

20 日 17:41 アブドルジャバル・イラク石油相  
「原油価格は、2022 年前半に 100 ドルに到達する見通し」

20 日 19:30 ウンシュ・ベルギー中銀総裁  
「現在の経済データを鑑みれば、PEPP(パンデミック緊急購入プログラム)終了は合理的」  
「持続的な緩和政策は副作用を増加させる」

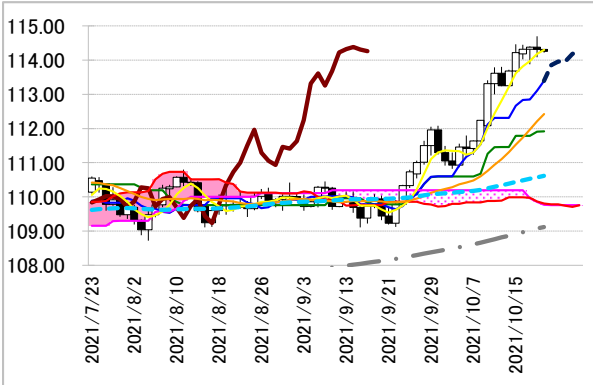
20 日 22:44 ホルツマン・オーストリア中銀総裁  
「かなりの物価上昇が見られるが、中期的には新たなインフレ目標を達成することに自信」

21 日 02:16 クオールズ米連邦準備理事会(FRB)理事  
「テーパリングのテストに合格したことは明らか」  
「11 月にテーパリングを開始し、2022 年半ばまでに終了することを支持」  
「インフレ率は来年大幅に低下する可能性があるが、上振れリスクは大きい」  
「需要の抑制は時期尚早」  
「インフレが長期間続く場合、行動する必要」  
「来春のインフレ率が 4%にとどまる場合、FRB は金利上昇経路を再評価する必要」

21 日 03:10 米地区連銀経済報告(ベージュブック)  
「米経済活動は緩やかから穏やかなペースで拡大した」  
「サプライチェーン、労働力、新型コロナデルタ株の影響でペースが鈍化したとの指摘もあった」  
「製造業はほとんどの地域で緩やか、または堅調に成長した」  
「非製造業はほとんどの地区で緩やかに成長した」  
「住宅用不動産の活動は横ばいか、わずかに減速」  
「ほとんどの地区で、商品や原材料の需要の高まりで大幅に値上がりした」

※時間は日本時間

## 〔日足一目均衡表分析〕

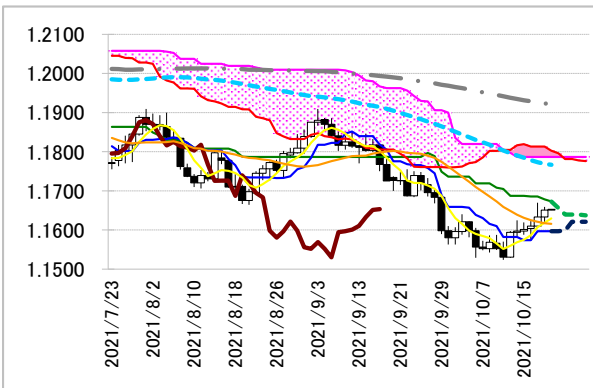


### ＜ドル円＝転換線を支えに大きな崩れ回避へ＞

小陰線引け。一時114.70円と、2017年11月につけた114.73円の節目を目前に失速した。

騰勢は小休止。114.30円付近へ上昇した5日移動平均線を割り込んできており、高値圏での調整局面か。しかし、一目均衡表・転換線113.39円は、現状からすれば明日には113.85円へ上昇し、その後も上昇を継続する見込み。大きな崩れを回避し、転換線を支援に戻りを試すとみる。

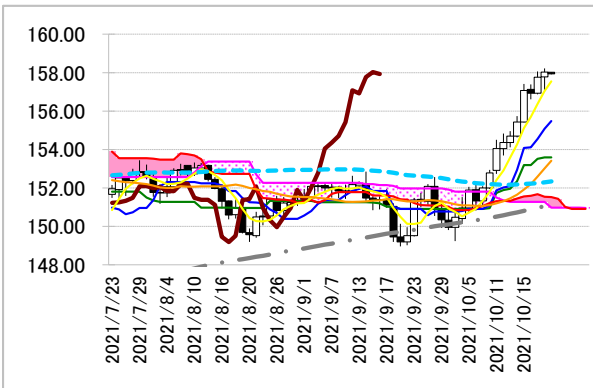
レジスタンス2	115.51(2017/3/10 高値)
レジスタンス1	114.73(2017/11/6 高値)
前日終値	114.31
サポート1	113.88(10/19 安値)



### ＜ユーロドル＝基準線-転換線レンジ放れは上方向か＞

下影小陽線引け。引き続き一目均衡表・基準線と転換線に挟まれたレンジながら、前日に押し戻された値幅をいくらか取り戻す底堅さを示した。まだ基準線1.1673ドルと転換線1.1597ドルに挟まれたレンジ中心の動きは続くかもしれないが、1.1610ドル台で低下中の21日移動平均線に引っ張られるような流れは脱却できた感がある。両線に挟まれた水準から放れる方向は上側との示唆かもしれない。

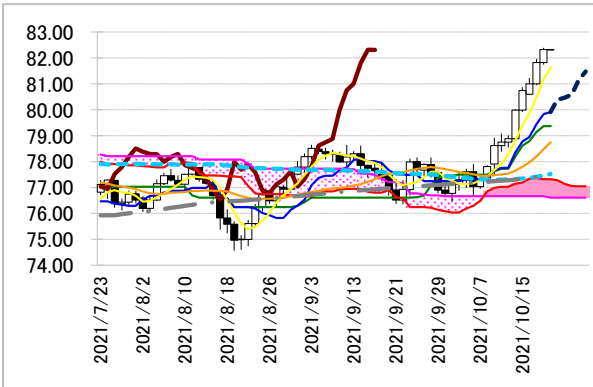
レジスタンス1	1.1717(9/3-10/12 下落幅の半値戻し)
前日終値	1.1651
サポート1	1.1597(日足一目均衡表・転換線)



### ＜ポンド円＝高値警戒感あるが基調を崩す特段の兆しはない＞

下影小陽線引け。157円付近へ上昇した短期5日移動平均線からのかい離を埋めるように下押しが先行した。しかし、反落は157.02円まで。158円台へ戻し、小さい足形ながら陽線を形成している。高値警戒感があり調整含みながら、底堅い流れは維持。157.55円前後まで切り上がった5日線を割り込む場面も出てきそうだが、基調の崩れを感じさせる明確な兆候は特に示していない。

レジスタンス1	158.50(ピボット・レジスタンス1)
前日終値	158.03
サポート1	157.55(5日移動平均線)



### ＜NZドル円＝警戒感くすぶらせつつも上値を伸ばす流れ＞

陽線引け。2017年9月以来の82円台回復となった。高値圏で警戒感はあるが、それをくすぶらせつつも上値を伸ばしてきたのがここまでの動き。81.64円前後へ上昇してきた5日移動平均線を明確に割り込むまでは流れに乗るべきか。今後の大きな切り上がりが見込まれる一目均衡表・転換線79.91円もサポートとして控えており、底堅さ維持を予想する。

レジスタンス1	82.76(2017/9/21 高値)
前日終値	82.32
サポート1	81.74(10/20 安値)

